

大型の動物製作

附屬幼稚園 村上露子

大きい組になりましたから、動物園を作り度いさは、かねぐもくろんで居りました事で御座います。それも思ひ切つて大まかな力の仕事を主體として、大掛りな動物園を作り度いさ、其の機會をねらつて居りました。

或る朝の事、前日の續いたお休みに、偶然にも數人の子供が動物園に行つたさ、しきりに話をして居りました。如何にも親しみを持つて居る様子に、私も乗り出して、

「象さんに乗つて見たい?」

さ切り出しました。みんなはニコく笑つて頷ぎます。

「何がお好き?」

「僕ライオンだよ」

「私兎ちやんだわ」

「象が好き」

「みんな好きだい」

「山の組でも動物園作らないこと?こてもいゝのを」

「うん作らう」

ミ殊に力の溢れた正大君が、眞先きに力強く申しました。

他の子供達も目を輝して居ります。

「馬だの象だの、大きいの作りませうよ。皆さんの乗つかれる様なのね」

「先生何で作るの?」

「大きな木の箱があるでせう、あれで作つたらさう?頭ミ脚ミ尻尾をついたら本當に乗つかれますよ」

「いゝね」

ミ皆んな大喜びで御座いました。

その翌朝——元氣な正大君は、「お早よう」云ふ聲を共

に、眞赤な顔をして、ビールの空箱をうん／＼両手にかゝへて來ました。

「さあ先生作らうよ。お家にあつたからこれ持つて來たんだよ」

正大君の熱心さ、それにも増して、お家の方が子供の爲に遠い路をわざ／＼空箱を下げて持つて來て下さつた事を思ひますと、本當に嬉しう御座いました。

早速、水牛がいゝ云ふので、板を探して參りまして、それに水牛の正面の顔を描きました。板に大きく描くのは初めてで、なか／＼思ふ様にいかないで、消したり描いたり、お友達が來て、「こゝはこゝなつてるよ」と手傳つたりして、さう／＼いゝ水牛の顔が出來ました。

色々動物の寫眞帖や繪等をすぐに見られる様に、お部屋に置いておきました。親夫さんもキリンを作り度いさ申します。寫眞を見ながら、可愛らしい、首の長いキリンの横顔を描きました。このキリンは、正大君の持つて來てくれたビール箱を胴にするさ、丁度いゝので、水牛は又別の大きな空箱を見つける事にして、讓つてもらひました。顔は

鋸で切りぬきます。さて横向きのキリンの首を、さう云ふ様に胴になる箱に取り付け様かき、子供達と一緒に考へました。首が動く様に等ミ六ヶ敷い注文も出ましたりして、やつさいゝ思ひ付きを致しました。みんなで代る鋸で切つたり抑へたりいたします。物置から長い棒を持つて來て、脚になる様に適當の長さに切りました。子供が歸つてから、兎に角此のキリンを一つだけ明日迄に作り上げて、先づ子供等を喜ばせて上げたいさ云ふ氣持が一杯で、實習科の方々と一緒になつて、何度か失敗しながら、其の日は夕刻迄かゝつてやつき首と脚がつかました。

案の條、翌朝は、先づ部屋に入るや否やすつさ立つてるキリンを見付けて大喜び。「いゝね」「脊が高いね」さ脊中をなせてゐる子供もあれば、早速椅子を臺にして脊中に跨り、首を動かすやら大騒ぎ。

この一匹のキリンを見ていよく皆が乘氣になり、さあ水牛も作らう、虎もさ大變な意氣込みさになりました。大きな蜜柑箱に先きの水牛の首を取り付ける事にいたしました。今までに氣が付かないで本當に申譯けない事をしたさ

思ひましたのは、彰さんがこの動物を見て心から嬉しさうにして居た事で御座います。いつも仕事は好きでなく、興味もなさそうで、云はれればするが、ちよつと目を離すさすつと途中で抜け出して、一人で本を讀みふけて居るさ云つた具合で御座いました。「水牛の首はさう云ふ風に付けたらいいのかわら？」と誰れに聞くでもなしに云つて居りましたら、其の彰さんが一人でさそく何か探して居りましたが、本の寫眞の中からわざと水牛を見付けて来て、首はさうなつてゐるから、この位の長さでさうつけるさいゝんだよと色々教へてくれました。其の上鋸で木を切つてくれたり、一々寫眞を照し合せては適當な位置に釘を打つたり、大變な力の入れ方です。思へば今までの仕事は彰さんにさつては、少しも力が入らない、面白味のない手答へのないものだつたので御座いませう。其れをおろかにも氣付かずに、仕事の嫌いな子にしてのみ心配して居りました私は、申譯けななさ、又一方後ればせ乍らでもこの動物製作に依つて、眞の力を誘導し發揮させる事が出来た喜びを感じました。

子供達は脚にする木を切つたり、釘で打ちついたり代りに力一杯働きます。子供達に出来る仕事は全部子供の手でさせる様に致しますので、仕事が大きいのので、一匹作り上げるのにもなかく日數がかゝります。晴れた日に外に持出して色塗りを致しますのは、主に女の兒で御座います。ラクダに、キツネ、ライオン等一匹々々出来る度に、皆の喜びの度も増し、それは子供のよい遊び相手になります。動物の脊中に乗つて遊ぶのが何よりも嬉しいらしく、殆んど毎日お庭に連れ出したり、お山に登らせたりいたします。或る時は兵隊の馬の代りになつたり、お客を乗せたり、荷物を運んだりなかく色々の面白い遊びが進展いたします。時々他所の組からもお客に見えます。ライオン上の騎士は得々として首を動かしたり、耳を引つぱつてハンドル代りに廻したりするので、度々顔や首の大修繕をしなければなりません。然し其の度により丈夫な方法を工夫いたしました。こんなに皆から可愛がられて、動物も本望で御座いませう。

やがては動物園をさ云ふ計畫では御座いますが、こんな

に一つ／＼の動物を生かして楽しく遊ぶ様子を見ます。今暫くこの儘の状態において、一方製作を続け、動物を柵の中に入れて観覽に供する動物園を開くのは、もつゞ後でいゝ事だま存じました。

この仕事は興味の湧いた時には、毎日誰かが製作をし、二週間も其の上も続く事もあれば、他のしなればならぬ仕事があつたり又一時興味が違つた方に向ふ事等も御座いまして、暫く休息状態になつた事も御座います。部屋の一部に作業臺を置き、大小色々の空箱、板、棒及び尻尾にする爲の繩さか、針金、布等の材料さ、鋸、釘、金槌、鉋等の道具は何時でもすぐに使へる様に用意いたして置くべきです。材料の不足の爲に、折角作り度いさ申します時に作らせる事が出来ませんで、好機を逸してしまつた事が御座います。材料を豊富に取揃へるさ申ししても、材料費に限りが御座います故、新らしいものばかりではごてもやり切れませんので、なるべく費用のかゝらぬ様なもの——空箱はもさより、一度何かに使つた不用の板、建物の足場や棒抗等の不用な丸太棒も利用致しました。兎さか小

豚さか小鹿さか、小さな可愛らしいものを作らうさ相談が定りました時に、子供に、「もしかお家にいらぬ丁度いゝ箱があつたら頂いて来て頂戴」。さ申しましたら、随分澤山皆が持つて来てくれました。昭子さんのお家では、お母様が、「何で御座いますか、昭子が兎を作るのだからお父様に箱を作つて頂戴さ申しまして、一々大きさを自分で註文いたしましたして、さう／＼一日掛りで作つて参りました」。さおつしやつて丈夫な箱を持つて来て下さいました。よく子供等はお休みの日に動物園に連れて行つて頂く様で御座います。或る日、例の正大君は朝お早ようさも云はないでいきなり、「先生キリンの目見て来たよ、さうぢやないよ、筆かして」。さ申しまして。墨さ筆さを渡しますさ、既に出来上つてゐた二匹のキリンの側に椅子を持つて行つて、たつぷり筆に墨をふくませて、いきなりぐる／＼大きな目を描きました。さうするのさ内心はらく／＼ながら様子を見て居りました私は、出来上つたのを見て、「まあ本當にさうね」。さ心から感心してしまひました。一つ／＼作る度に感じる事で御座いますが、實に子供達の觀察のさういゝる

事ミ、それからちよつこした事でもいゝ加減には濟まさない事で御座います。この間も道雄さんが鹿の脚にする棒に鉋を掛け様ミして、ふみ何か思ひ付いたらしく、他の棒を採して切つたり、又釘を打ちつけたりして居ります。何にするのかミ様子を見て居りますミ、やがて出来上つたのは鉋をかける臺です。「大工さんがしてゐるのを見てたんだよ」。ミ申します。成程これなら人におさへてゐてもらはなくて一人で鉋がかけられます。よくも工夫したものだミ存じました。又小豚の色塗りを致しました時の事、少々色に赤味が勝ち過ぎましたかミ思ひ乍ら其儘にして居りましたら、早速夫れを見て子供はこんな事を話して居りました。

「豚の子供はこんなに赤くないよ」

「怒つてるんだよ」

「そうぢやないよ、きつミ恥しがつてゐるんだらう」

何て可愛い事を云ふのでせう。色々子供達の意見も出ましたが、豚の赤ちやんだからこの儘の色でいゝミ云ふ事にきまりました。

昨年の暮から、子供達の小學校入學檢定等の諸問題の爲、何かミそちらの方に絶えず細かい注意を配り、先生も、子供も何か落付かぬ氣持ちで日を過して居りました爲、大きい仕事は餘り手を付けられませんでした。それもすつかり濟んで、いよゝ二月から初めの計劃通りの動物園を開く爲に、皆々忙しく働いて居ります。未だ足りない動物をぎんぐ作るミ共に、柵を作りましたら急に動物園らしい感じがして參りました。忙しく働くのは氣持ちのいゝもので御座います。動物園ミ云ふ目的に向つて皆が力を合せて、お部屋の中で或る子供は顔を描く、一方では脚の棒を切る、鉋をかける、釘打ちをする等、外のテレスでは色塗りをするミ云ふ様に、子供達皆が全く夢中になつて仕事を續け、お晝のサイレンが鳴つて初めて時間に氣が付いた事も御座いました。そんな時にはお辨當だミ呼んでもなかなか仕事を止めません。棒切れや板の餘り等を巧く利用して何日もかゝつて一人でこつこつミ飛行機や軍艦等を作つて居る子供も御座います。もうこの頃では男の兒は申すに及ばず、女の兒でも鋸も使ひますし、釘打ちも大變上手に

なりました。たゞ子供等が危い道具を使つて居ります時は必ず先生が傍に付いてゐる事に致して居ります。

いつの間にか随分動物の數もふえました。只今ではキリンが二匹——この中の一匹は昨秋畏くも、皇后陛下の台臨を仰ぎ奉つた折に陳列いたしましたして、勿體ないミ申上げますか、有難い極みミ申上げますか、陛下御手づからこのキリンの首をお動かし遊ばされた由、倉橋先生から承りました。何ミ云ふ光榮のキリンで御座いませう。子供にも後でその話を致しまして、殊に大事に致して居ります。——それから親豚小豚が三匹、鹿の親子、縞馬、水牛、狐、犬、兎が數匹、三匹の猿、猛獸では豹、ライオン、虎等が出來上りました。豚の子ミ兎ミは一番女兒に可愛がられて居ります。おまゝごこの時には必ずお仲間に入れてもらつて居ります。豚だの兎だのに洋服や色々の着物を着せた繪が大はやりで御座います。

其の他に小鳥も色々作りました。(粘土で作り繪具で着色いたしました)。可愛らしい小鳥の小屋も出來、巢の中には卵も入つて居ります。道雄さんがお家からわざわざ小鳥の

餌をこしらへて持つて來ました。やさしい心使ひです。

小鳥作りの間にも、又子供の本當のよきを見出す事が出來ました。律夫さんは體も弱々しさうですし、友達交渉もありなく、仕事に熱中するでもなく、はつきりしない存在だつたので御座います。ミころが或る朝、一人でお部屋の瓶から粘土を出して參りまして部屋の隅つこの机に向つて何かしきりに作つて居ります。さうするのかわらぬやつこ様子を見て居りますミ、小鳥の様なものを一生懸命に作つて居ります。それが只一つのを毀したり作つたりして居ります。友達が側で騒いでもまるで振りむきもせず、あまりいつも違つた眞剣な態度に、さうするか知らぬだまつて終りまで見守つて居りました。もうお晝も近い頃——二時間餘りも絶ちましたか——やつミ氣に入つたのが出來たミ見え、「燕が出來た」ミ云つて持つて參りました。其の時の嬉しさうな顔！律夫さんにこんな力があつたのかミ、私も本當に嬉しう御座いました。これを機會にミ申しますか、其れから後の律夫さんの總ての製作に對する熱心さはすばらしいもので御座います。

こゝ暫くはお難様のお仕事に向つて居りましたので、動物園の製作はあまり進行致しませんでした。お節句も済みましたら、いよいよ最後の幼稚園生活に、最後の馬力をかけて、尙この外、象に、水鳥のお池、賣店、切符賣場等を完成し盛大に動物園を開園いたさうと意氣込んで居ります。

* * * *

動物の作り方を簡単に申上げませう。何かの御参考にもなりましたら幸せて御座います。

顔、

顔に用ひる板は、二分か三分位の厚さが手頃で御座います。新らしいのばかりでなく有合せの箱の蓋を使つたり、一度何かに使つた不用のものを探したり致しました。

板に顔を描かせるので御座いますが、普通は正面の顔がよろしく御座いますが、キリン、ラクダの様に、横から見た方がその特色がよくわかるものは、横向きの顔と首との續いたものを描きました方がよく感じが出ます。象の顔は箆を利用し、鼻は針金を螺旋状にしてつけて見たらさうか知らざ考へて居ります。一つ注意致します事は、だまつて居

りますとさうしても顔を小さく描いてしまひます。胴のきまつて居ります場合には、この位の大きさにさちよつと申した方がいゝ様で御座います。切りぬくのは先生が鋸ミシんで致します。

胴、

前にも申しました様に色々な空箱を利用いたしました。

大小の果物の箱、ビール箱、お菓子箱、それから釘樽等で御座います。顔の大きさに依つて箱を求めるとき、箱の大きさがきまつてそれに合ふ様に顔を描く場合と御座います。子供達が脊中(箱の底に當ります)に乗りますから、丈夫に出来て居るもので、あまり古くて腐りかけた様なのはいけません。

首、脚、これは丸太棒と、角棒と兩方用意出来ればよろしく御座います。動物でも太つたのには丸太棒を使つて見ましたが効果が御座います。脚の長さは、少し不經濟の様ですが脊中からの高さだけ用意する方がいゝと存じます。

脚の一端が箱の底につく様にして、底と兩側からしつかり釘で打ちつけます。これは一番丈夫にぐらぐらしない様に

致しません。危なう御座います。例外として虎は胴に丸味のある釘樽を使いましたので、脚は横側につけなければなりませんでした。なか／＼うまくつきませんで何度も失敗いたしました。首は丸太棒なり角棒なりを、顔は胴は脚の釣合ひを考へて適當に長さを定め、一方を少し斜に切り、脚が付きましてから、斜の方を脚の前部に打ち付け、

もう一方に顔を(正面向きの)つけます。たゞキリンミラクダの横向きの顔は、胴の脊中から前部にかけて首の入り込むだけの穴をあけ、そこに挿込んで上手に横側から釘を打つて止めます。又動かす様に致しますには、胴の兩横の首の下の方に穴をあけてそれに丈夫な針金を通します。動きません。でもこの横向きには大分苦心いたしました。この場合顔は両面に同じ様に描きます。

尻尾、

これは動物の種類に依つて色々工夫いたしました。虎は繩を三つ編にして針金を通し、自由な形に曲げられる様にする。キリン、鹿等は棕櫚繩を中にして、先きだけを出し、他は綿を入れて其の上を布で巻きました。縞馬、狐は棕櫚

で作る。兎は布で可愛い袋を作り、その中に綿を入れてつける。豚は、細い針金を數本寄せて其の上を布で巻いて見ました。色々考へます。面白う御座います。

猿は少し趣きを變へて平面的に全體の形を描く事にして見ました。木の枝にぶら下げたり致します。大變に感じが出ます。

小鳥の小屋は、小箱や蜜柑箱の一面を丸くくりぬいてそれに屋根を付け、柄を付けて、立つ様に致しました。

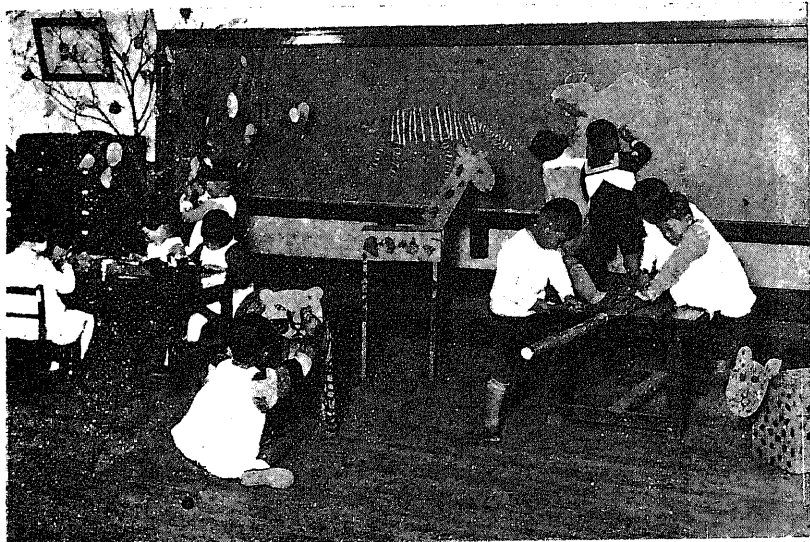
其の他柵等は適當に子供達と相談しながら色々工夫する。よろしいと存じます。

色塗り、

塗料はカゼインを使いました。小さいバケツに刷毛を用意いたします。これは數時間絶ちません。水にすつかり溶けませんから、豫め前日からバケツに溶して置きます。

お天氣のよい日に塗つてさつと乾く様に致します。色が落ちない様で御座います。よく塗る時にこぼれたり致しますから、なるべく外で塗る様にいたして居ります。

以上御参考になりますか。きうか存じませんが、これはこ



うしなければならぬ云ふ定めが有るわけでは御座い
せん、たゞ子供等と一緒に力を合せ度々喜びやら失敗やら
を重ね乍らこゝまで歩いて参りました。さうぞ御批評下さ
いませ。

ヤマノクミノドウブツエンへ

ドウゾオイデクダサイ

といふ入場料まで添へてのおまねきを受けたのは

三月十三日の朝でした、小さい組の喜び様。

みんなに親しいぞう、キリン、ライオン、トラ、

ラクダ、それにまつ白いスワンの二羽泳いでゐるお

池、ふか〜した緑の草の中に赤い眼をあげてる兎

かはい、小鳥小屋、先生達まで思はずうれしくなつ

ておせんべいやおいもをやりましてね。

かはい、繪のかいてある入場券は皆自分達のおへ

やにもつて來てはりました。

(森のこども)